

Contents

- 02 目次
プロローグ Vol. 4
- 04 特集 アフリカ
イノベーションで
未来を変える
- 06 アフリカの今を知る
ビジネスが変わる
- 08 国の未来を担う金の卵が續々誕生! ルワンダ
暮らしが変わる
- 14 農村で広がる電子マネー経済圏 モザンビーク
- 16 超音波エコ装置が保健サービスを変える スーダン
- 18 太陽光の力で水汲み労働を軽減 セネガル
人を育てる
- 20 科学技術の未来がここから始まる ケニア エジプト
- 22 付加価値を生むカイゼンへ エチオピア チュニジア
- 24 JICA海外協力隊がゆく Vol. 3
ラオス
- 26 世界につながる教室②
高校生の未来に種をまく 茨城県つくば市
- 28 地球ギャラリー Vol.125 ネパール連邦民主共和国
写真・文●堀むあん 写真家
激変する山岳民族の生活
- 34 教えて! 外務省
知っておきたい国際協力⑤
- 36 JICAイベントカレンダー
- 38 読者の声、プレゼントほか
- 39 JICA PRESS
- 40 わたしが見つけたSDGs Vol. 5



ルワンダのFABLAB(p.11参照)で研究開発を行う若者。模型飛行機を製作中だ。写真:光石達哉



信頼で世界をつなぐ
Leading the world with trust

アフリカで広がる 新しいビジネスの形

プロローグ
Vol. 4

文・鮫島弘子



イラスト●中村知史

みなさんはアフリカにどんなイメージをお持ちでしょうか。サバンナに棲むキリンやライオン、そして一枚布を巻き付けた肌の黒い人々? さすがに「mundi」の読者に、そんな偏ったイメージしか持ち合わせていない人は少ないかもしれない。だが、高速ドローンが病人の命を救い、モバイルマネーや仮想通貨で売買や送金が行われていると聞けば驚く方もいるのではないだろうか。

カリフォルニアに拠点を置くスタートアップ企業「ZipLine」はルワンダの農村地域で、ドローンを使った輸血用血液や医薬品の輸送サービスを始めた。ルワンダにかぎらず、アフリカの多くの農村地域には住所がない。整備された高速道路もない。緊急物資の輸送は困難な地域だが、ドローンであれば道路は不要。時速120キロで物資を運び、さらに住所がなくともGPSで目的地を感知し、そこへ小包を落とすという仕組みだ。

ZipLineが最初のマーケットにアフリカを選んだのは、人道的使命感から……ではない。当初、彼らのホームタウンであるアメリカでは連邦航空局からの承認が下りなかったのだ。「一般航空機の運航が妨げられる恐れがある」というのがその理由だった。一方、ルワンダはこのイノベーションなアイデアにすぐに賛同し、米国よりずっと速く、無人航空機に関する制度を整えた。

* * *

先進国では新たな技術やアイデアが生まれても、既存のサービスや法規制がハードルになって普及までに時間がかかるのに対し、アフリカではそういったハードルがもともとないか、あっても低いため、すべてを飛び越えて一気に広まる、ということがしばしばある。リープフロッグ(かえる跳び)と呼ばれる現象だ。モバイル決済、仮想通貨による国際送金、シェアリング、GPSを使った輸送システムなどがその最たる領域で、今、ケ

ニアやナイジェリアを中心とするアフリカのインキュベーションオフィスは、そんなビジネスを起こした(起そうとしている)現地企業で溢れかえっている。彼らを後押しするのが国外の投資家たちの存在だ。アフリカのスタートアップ企業への投資総額は、この5年で5倍にまで増えた。爆発的な人口増加と経済成長が続くアフリカの可能性は、ビジネスのフィールドにおいても計り知れない、というわけである。

ただ、当たり前の話であるが、すべてが計画通りにいくわけではない。この数年の間に、はじめはその地域ではワン・アンド・オンリーだったが、次第に競合相手が増え、価格競争に巻き込まれたあげくに脱落……という企業をいくつも見てきた。あるいは計画通りに黒字化せず、盛大に調達した資金を食いつぶして空中分解、という企業もあった。かくいう私自身も、エチオピアで起業して以来過去に何度もピンチを迎えた。

そんなときにいつも思い出す言葉がある。以前、とあるイベントにて対談させていただいた、世界銀行グループ総裁* ヨン・キム氏の言葉だ。

「イノベーションはある日突然降って湧いてくる偉大なアイデアのことではない。そのアイデアを、手を使って実行すること、そしてそれを継続することで、イノベーションになるのだ」

まさに真理だと思う。蛇足ながらさらに私見を付け加えると、その継続ができるかどうかを左右するカギは、資金力や能力以上に、使命感やビジョンにあるのではないかと思っている。

鮫島弘子(さめじま・ひろこ)

「andu amet」代表兼チーフデザイナー。青年海外協力隊のエチオピア、ガーナ隊員、外資系ファッションブランドのマーケティング部クリエイティブ担当を経て、2012年に「andu amet」を設立。エチオピアの自社工場で生産を行う、世界最高級の羊皮「エチオピアンシーブスキン」を使用したレザー製品を製造・販売している。2018年、表参道に直営店をオープン。現在エチオピア在住。